

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 28 年 8 月 18 日 (2016.8.18)

【公開番号】特開 2016-3955 (P2016-3955A)
 【公開日】平成 28 年 1 月 12 日 (2016.1.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-002
 【出願番号】特願 2014-124412 (P2014-124412)
 【国際特許分類】

G 2 1 C 17/035 (2006.01)

G 0 1 F 23/18 (2006.01)

【 F I 】

G 2 1 C 17/02 D

G 0 1 F 23/18

【手続補正書】
 【提出日】平成 28 年 7 月 1 日 (2016.7.1)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 4
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 4 】

(2) 非常時

原子炉格納容器 8 内の温度が通常運転時より上昇するとともに原子炉圧力容器 1 内の水位が通常運転時より低下するような非常時は、バランス弁 1 2 及び仕切り弁 1 3 A , 1 3 B を開状態に切替える。具体的には、例えば原子炉圧力容器 1 内の水位が有効燃料頂部 (T A F) 近傍まで低下するか、若しくは原子炉格納容器 8 における基準圧力導管 4 A の貫通部 (ペネトレーション) の高さまで低下したときに、バランス弁 1 2 及び仕切り弁 1 3 A , 1 3 B を開状態に切替える。そして、図 2 で示すように、原子炉圧力容器 1 内の水位が基準圧力導管 4 A の分岐部 9 の高さより低下すれば、基準圧力導管 4 A の分岐部 9 より上端部側の水がバランス管 1 1 及び水位圧力導管 5 A を介し原子炉圧力容器 1 に流出して、基準圧力導管 4 A の分岐部 9 での水面高さ h_2 となる。基準圧力導管 4 A の分岐部 9 から基準圧力導管 4 C の下端部 (言い換えれば、差圧計 7) までの部分は、原子炉格納容器 8 の外側に位置するので、原子炉格納容器 8 内の高温による影響をほとんど受けない。そのため、基準圧力導管 4 A の分岐部 9 の水面高さ h_2 を一定に保つことが可能である。